

福島大学人間発達文化学類同窓吾峰会

会津支部広報

発行者 会津支部長 渡部 裕二

第 6 号

発行日 令和 7 年 8 月 1 日



あいさつ

支部長 日新地区 渡部 裕二（昭和 48 年卒）

吾峰会会津支部は、会員相互の親睦を深め、地域教育の振興を図ることを目的に、活動を行っています。

しかし近年は、会員数の減少や現職会員の参加の少なさが課題となっています。そこで私たちは、「つなぐ・ひろめる・さんかする」をキャッチコピーに掲げ、広報紙による情報発信と活動参加の促進に力を入れてきました。

また、教育現場の現状を知っていただき、現職の先生方の教育実践にも役立てていただこうと、福島大学の教授を講師に迎えた講演会を開催しました。「地域教育の振興」という趣旨のもと、市民にも広く呼びかけた結果、塾経営者や保育士など子どもに関わる多くの方々にご参加いただき、大きな励みとなりました。

一方で、賀寿を迎えられた会員を訪問し、福島師範時代の貴重なお話を伺う機会もありました。その中で、母校の歴史や歩んできた道のりの重みを実感し、同窓会が世代を超えて温かな交流が生まれる場であることを、改めて認識いたしました。

なお、令和 9 年度には母校が「教育学部」へと名称と内容を変更し、スタートします。また、令和 8 年度には同窓吾峰会会津若松大会が開催される予定です。

今後とも、つながりを大切にし、地域教育にも貢献していきたいと考えております。引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和 7 年度福島大学同窓吾峰会会津支部総会

5 月 11 日（日） 会場 ルネッサンス中の島

「今日の世紀に生きる喜びに～」懐かしい歌声とともに令和 7 年度会津支部総会が開かれました。

叙勲受賞者紹介、米寿・喜寿の方への記念品贈呈があり、代表して本多勝男様からご挨拶がありました。本多様はご退職後から自然観察会のガイドを今も続けておられて、様々な人たちの出会いと対話の楽しさ・自然保護に一役買っていることの喜びを生き生きと語ってくださいました。

議事では、近年の会員減少に関わる話題が出され、会への関心を高め参加を促す取り組みについてご意見をいただきました。



本多勝男様より米寿伝達の謝辞がありました

教育講演会 ー子どもの特性に理解をー

総会終了後に、本学教授高橋純一先生から「発達に特性のある子どもとの向き合い方」と題して基調講演がありました。会員、市民約 60 人が参加しました。



高橋純一先生の講演の様子

高橋先生は、「子どもの背景に何があるのかを探ったり、行動に関する情報を集めたりしてほしい。同時に環境も考えることが重要だ」と話されました。

60 分の基調講演の後に、参加者が少人数で感想を語りあい発表する対話の時間を設けました。現職の先生方やこどもクラブで支援員をされている市民の方から「明日からの子どものかかわり方に活かしていこうと思った」という声が聞かれました。

同窓会として大学と市民をつなぎ、地域の教育振興と大学の振興に役立てたのではないかと思います。

懇親会

総会・教育講演会後に、懇親会が行われました。講演をいただいた高橋先生にも出席いただき、退職会員、現職会員の先生方で交流し、大いに盛り上がり、楽しく有意義な懇親の場となりました。

これまでの教員生活を振り返って (前)東山小学校 大東 亮介 (令和4年卒)

今から6年前、私は大学3年生でした。教員になろうと教育実習を楽しみにしていた時新型コロナウイルスが流行りました。6月に行く予定だった実習は10月にずれ、4週間のはずが3週間になってしまいました。そんな実習でしたが、現場の先生方は色々な工夫を施し、子どもたちが自主的に学びに向かうようにしていたのを覚えています。その熱意を受け、拙いながら私も懸命に授業を行いました。

さて、教員になって3年経ちました。初めてで分からないことだらけだった1年目。2度目の5年生担任で見通しをもって動けた2年目。6年生担任になり修学旅行や童子行列など子どもと一緒に貴重な経験ができた3年目。振り返るとあつという間だったなと思います。そして4年目は初めての異動です。生まれて初めて海沿いで生活するので慣れないことが多々あると思います。ですが、これからも子どもたちが楽しく学べる授業ができるように頑張ります。

*大東亮介先生は4月に相馬市立中村第一小学校に異動されました。ご活躍ください。



(左)教員最初の卒業アルバム

今回は、鶴城地区 鈴木力雄さん、会津若松市立第五中学校 和田翔太先生です。お楽しみに。

「会員の声」から

Q インターネット環境やスマホが急速に普及しています。メールを利用したりやホームページを作成したりして、文書の配信や会報の閲覧などができないでしょうか？

A 会津支部退職会員の約4割が80歳以上で、この年代の多くはスマホやパソコン等に慣れていない会員が多いと思います。そのため、紙に印刷して配付し、連絡は使い慣れたハガキやFAXなどを利用しています。同窓会は高齢者の割合が高い団体ですので、ご理解下さい。

ただ、現職会員を含め、スマホやパソコンを使いこなしている方々も多くいます。今後は、ネット等を利用した方法についても検討していく必要性を強く感じています。

なお、役員間の諸連絡は、全てラインやメール等を利用し、事務の効率化と経費削減に取り組んでいます。

同窓会郡山大会のご案内

日時：令和7年10月11日(土) 12:30～

会場：郡山市 ホテルハマツ

高速バスで1時間程度の近い会場です。参加希望の方は9月7日までに、事務局長の大越方(080-5563-5020)に申し込んで下さい。後日、詳しい内容をお知らせします。



於：あづま荘 2025.3.25(Fri.)

クラスノート

門田地区 星 善樹(昭和57年卒)

7年3月28日(金)、「53中学校社会科」の同窓会があづま荘で行われた。卒業して40数年、その間、何度も実施された同窓会。今回も助言教官の伊藤先生を始め、9名全員が顔を合わせた(寺田君、遠く静岡からありがとう)。おいしい料理や酒を楽しみ、思い出話や近況、世界情勢に及ぶまで話は尽きず、時計は12時を回った。こうした中で、話題となったのがクラス代表の齋藤さんが、持って来てくれた「クラスノート」。これは、9人が1冊の大学ノートを順番に回し、各々が、その時々を考えていることを自由に書いた物。その中には、まさに40数年前の自分がいた。現存しているノートは、2冊だけだがもう数冊あったように思う。こんな仲間だからこそ、今も再会が嬉しい。この日、私の目には40数年前の姿のままの友が見えた。今回、新たにライングループができ、「クラスノート」と名付けられた。これから、ここに、書きたい時に書きたい事を書いて、互いの存在を力としながら生活していこうと思う。何年後かの再会を楽しみに・・・。

<編集後記>

会津支部総会後の教育講演会には、会員以外の方々にも大勢ご参加いただき、座席が足りなくなるほどでした。今後も会員の声を生かし、吾峰会の活動がより充実したものにできるよう取り組んでいきます。(小林義弘)